

2019年新入部員（現2年生）に聞く

「入部を決心したのは？そしてこの1年間で得たものは？」

2年生 阪本 龍海（さかもと たつみ）

私は阪本龍海と言います。なんてことない文化情報学部の一回生です。なんてことない高校で、なんてことないソフトテニス部をしていましたが、戦績はありません。よく理系の人と思われそうですが、文系です。そして勉強も得意ではありません。ただ、京都の大学に行きたいという一心で同志社大学に入学しました。

大学入学後は文化系サークルに入り、そこで出会った友達と、なんてことない生活を送って卒業するのだろう。航空部に入部するまではそんな自由な生活へと、想像を膨らましていました。初めての大学生、人や規模に圧倒され、疲れ、漫歩していると、白い翼が見えました。何だろう？と気になり、近づいて見るとあったのは綺麗な機体です。きっと良く飛ぶのだろうと思い、話だけでも聞こうと興味を持ちました。

これが私と航空部との出会いです。思い返すとこの時には半分、入部することを決めていたのかもしれない。大学生にしかできない活動のことを探して、色んな団体を見てきましたが、この機体には運命的のを感じました。

そしてもう半分は体験搭乗です。私は福井空港で初フライトをしました。空の上、いつもとは違う景色に非日常的な世界が飛び込んできて、心が踊りました。

この約1年航空部は私の大学生生活の半分を占めているといっても過言ではないほど、大切な居場所になりました。もちろん大変なこともたくさんありました。夏の木曽川1週間合宿では心身共に疲れて、途中で熱を患いました。時には、合宿後

から次の合宿までの1ヶ月を200円で過ごさなければならぬ時期もありました。

初めは同じ学部、学科の子も所属していましたが、その子が去った時は只々辛かったです。しかし、他の同回生の仲間がいたから続けてこられたのだと思います。この1年で得られた、とても大切な仲間です。これからも大切に、互いを支え、高め合える存在でありたいです。

私の目標はライセンスを取ることです。例えば、この先に何があっても「幾重にも辛酸を舐め、七難八苦を越え、艱難辛苦の果て、満願成就に至る。」この言葉を胸に夢に向かっていきたいです。

2年生 岡 佑樹（おか ゆうき）

僕が航空部に会ったのは入学式の時大学の正門にASW28を見つけたときでした。見たときは凄い衝撃を受けた事を覚えています。その後、体験搭乗に行き実際乗ってみると怖さが多少あったものの空を飛んでいるような気分がしてとても気持ち良かったです。新歓期間で田辺の唯一の先輩磐前さんに話を色々聞いていると部活の雰囲気はとても良さそうで凄く良い経験が出来ると思い入部を決めました。

しかし、入部してある程度時間が経つと悩みも出てきました。フライト面では自分の課題が出てきて上手く飛べなく教官に怒られたり、他大との発数の差が大きくなり実力差が出てきたりしてとても悔しいと感じます。また、フライト以外でも自分の係養成が上手くゆかなかつたなど、苦労が

あります。でも、自分が出来ない事を積極的に先輩や友達に聞くことがたくさん増えました。

今まで僕は自分の抱える問題を自分で解決しようと生きてきましたが、航空部では全くこの事が通用せず他人から知識を仕入れるしかありません。

そして最近では、少しは上手くなっていると感じ始めました。僕は周りの意見を素直に受け入れる事や困った時は周りの人に助けってもらうことの重要性を本当に良く感じました。

これから進級し二回生になるにあたり目標は沢山ありますが、僕はこれから少しずつ周りに今度は自分が助けられるようになりたいと思います。

また、二回生中に係をとりソロに出てフライト技術をもっとあげたいと思います。そして、同志社というチームで助け合いながら強いチームにしていきたいと思っています。

2年生 高橋 果穂 (たかはし かほ)

私は中学生の時から空や航空機に興味を持ち、将来は航空業界の職業に就きたいと考えていました。そんなとき航空関係の本を読み漁っていると「ブルーサーマル」という漫画に出会い、大学には航空部という部活があることを知りました。

パイロットにも憧れを抱いていた私は、自分の手でグライダーを操縦できることに感銘を受けました。そして私の大学選びの基準は、まずその大学に航空部があるかどうかになりました。

そのような私も無事大学生になり、早速航空部のブースに赴き体験搭乗に参加することにしました。グライダーに乗ってみたいと長年待ち焦がれてい

た体験搭乗の当日、車で連れて行ってくださった場所はなんと京都から随分離れた福井空港。いざ自分が搭乗する順番になり緊張した面持ちで身構えていると、前にある曳航機を追いながら徐々に高度が上がっていきました。離脱後風を切る音だけが機内に響く、まるで空に浮いているような、なんとも言えない感覚に高揚感を覚えこれからの航空部生活に胸を弾ませました。

しかし、航空部での活動はただ楽しいばかりではありませんでした。先輩を見ていると常に何かしらの仕事を抱えていたり、毎週の学科や係の仕事など覚えなければならないことが山のようにあったり、グライダーで飛ぶためにはかなりの地上作業が必要となります。

多々辛いこともあります。私はこの一年間で先を見据えて行動することができるようになりました。機体組みがあと数分早ければ、索付けがあと数十秒早ければ、飛ばせる発数が増えます。一日ではあまり大差がないかもしれませんが、年間換算すると大きな数になります。

私は、せつかくの飛べる機会を無駄にしたくありません。ロスタイムを減らすために一歩先を考えて行動することを心掛けるようになりました。

これからも苦しい場面に直面するかもしれませんが、初心を忘れず、空を飛ぶことを楽しみたいと思います。

2年生 吉田 朱里 (よしだ あかり)

私は体験搭乗で初めてグライダーに乗って感動

し、先輩方の人柄の良さに惹かれて入部しました。元々航空部の存在は SNS で知りました。最初は、グライダーはパラグライダーの事だと思っていたので、SNS の写真をみて驚きました。こまめに更新していたこともあり、体験搭乗などのイベントに申し込んでみようと思いました。

実際に体験搭乗で福井空港に連れて行っていたとき、非常に貴重な体験をしました。飛ぶこと自体も楽しかったのですが、もっとこの景色を見たいな、これが自由に操縦出来たら楽しいだろうな、と思いました。

それでも運動音痴で本格的な部活の経験がないなどの理由で1ヶ月以上入部を迷いました。ですが、体験学科で先輩の人柄や部活の雰囲気に触れていくうちにその不安も軽減され、すでに仲が良かった同期の後押しもあり入部を決心しました。

入部して大変だったのは、思ったより訓練が厳しかったことです。安全のために覚えなければいけないことや守らなければいけないことが多くて最初にマニュアルを見た時には目眩がしそうでした。周りや段取りを見て考えて行動しないとイケないのも、私の苦手分野なのでかなり苦しみました。

ですが、訓練がある程度厳しいのはそれだけ安全な証拠ですし、その雰囲気を作ってくださる教官や先輩方に日々感謝しています。私自身も出来ることが増えて日々成長を感じています。

2年になったら後輩が出来るので、後輩にも飛ぶ楽しさを知って貰えるように、いい雰囲気作りとより多くの知識の共有を目標に、より安全な訓練を目指します。また、訓練や部内の仕事の一連の流れは掴めたので、よりフライトに労力を割い

て技量を磨き、滞空やソロに出たいと思います。大会にも積極的にチャレンジしていきたいです。卒業する時には、後輩に卒業を惜しまれながら悔いなく航空部人生を終えられればと思います。

2年生 川崎 洋樹 (かわさき ひろき)

入部の要因は、入学前から大学4年間の中でなができるかを考えていて、どうせなら面白いこと、長い人生の大きな思い出になることをしようと思っていました。つまりなにも残すことのない大学人生にしようと思ったのです。そんなことを思いながらふとこの部活の SNS を覗いてみたら自分の思い描く面白いことをしているなと思ったのが一つ目です。

2つ目は体験搭乗で初めてグライダーに乗った時の感動。加速から一気に高度400M近くまで上昇して空一面の景色を見たときにどこに所属しようか迷っていた自分が一瞬にして消え、一目惚れしました。高度が上がるたびに自分の幸度計も上がっていたのかもしれないね(笑)。そして搭乗直後、木曽川まで連れて行ってくださった三回生の大倉さんから入部する意思があるかどうかを問われたときに、「90%で入ります!!」と答えたのを覚えています。気持ちはぶれることなく家に帰るや否や入部届を書きました。これが、私が航空部に入部した要因です。

思ったより大変だったことは特にありませんが、強いて言うなら京田辺の格納庫まで行く時間と労力と交通費が正直しんどいです。

そして、入部して期待以上だったことは、発数

が伸びてくるにつれて自分の癖、うまくいかないところが明確に現れては修正していくことを繰り返すことで成長を感じられ、先の体育会人生で培った精神を活かすことが出来ることです。自大の同輩先輩がとてもいい意味で面白いです。こんな風にさらに面白い後輩に恵まれるとなお良いです。

そして2年次または卒業までの目標は自大同期のみならず他大同期ともに切磋琢磨し最短の目標である単独飛行を成し遂げて1人で大空を舞う感動を味わうことです。そして今よりさらに航空部人生を豊かにしたい。

2年生 浅野 翔大 (あさの しょうた)

僕は昔から空が好きで、旅客機のパイロットに憧れていました。しかし、大学に入るまでは航空部についてはほとんど何も知りませんでした。そうしたなか、一回生は一人千円で、グライダーで空を飛べるとい SNS の投稿を目にし、このチャンスを逃すわけにはいかないと思い体験搭乗に申し込みました。しかしこの頃はまだ航空部に入ろうという気持ちはなく、一生に一度の機会だから体験搭乗だけ行ってみようという考えに過ぎませんでした。

西山会長の運転する車に乗り福井空港に着いた僕はそこで初めてグライダーを目にしました。グライダーは周囲のモーターグライダーや単発機と比べてかなり小さくシンプルだったため、本当にこの機体で空を飛んでも大丈夫なのかというのが率直な感想でした。自分の番になり機体に搭乗すると、空を飛ぶことへの期待と緊張が襲ってきま

した。そしてモーターグライダーに曳航され、地面から離れ空中に浮いた瞬間の感動は今でもはっきりと覚えています。また、モーターグライダーから離脱した後に、動力がないにも関わらず空を飛んでいることを実感し改めて感動しました。体験搭乗により十分に心を躍らされましたが、この時はまだ航空部に入ろうとは考えていませんでした。

その後体験学科への誘いを何度も受けましたが、初めのうちはそこまで興味がなく受け流していました。しかし何度も誘われるうちに一回行ってみようという気持ちになり、初めて今出川のボックスに行きました。そこで先輩方からグライダーの魅力が伝えられ、次第に気持ちが変わっていきました。特に登島さんのグライダーへの熱い思いを聞いたことで、僕も自分の手でグライダーを操縦してみたいと思うようになり入部を決心しました。

また、先輩方の仲が良く、お互いを尊重し合う関係性が生み出す空気感が、僕たち新入生の居心地を良くしてくれたのだと思います。

気がつけば入部から約一年が経ち、すっかりグライダーの魅力に取り憑かれてしまいました。しかし、こうして今自分が航空部にいられるのは、諦めずに何度も勧誘し、グライダーの魅力を伝えてくれた先輩方のおかげです。そのため、少しでも多くの新入生にグライダーそして航空部の魅力を知ってもらうためにも、次の新勧で全力を尽くしたいと思います。

個人的な最終目標としては、自家用ライセンスを取得して ASW28 で全国大会に出場し、全国制覇をすることです。そのためにも部員全員で経験を共有し、技術を高め合えるような環境を作っ

いきたいと思います。

2年生 三澤 真子 (みさわ まこ)

航空部はずっと隠してきた「飛びたい」という気持ちをオープンにできる場所でした。私は物心ついた時から空を飛んでみたいと思うことが多く、パイロットに憧れていましたが大抵の人に無理だと笑われたので「飛びたい」と言うことが恥ずかしくなり隠すようになりました。しかし飛びたいという夢は大学生になっても諦めきれず、誰もがパイロットになれるという航空部に強く惹かれました。そして体験学科で先輩方が生き生きとグライダーの構造について語って下さるのを聞いたり、体験搭乗で部員の熱意を、身を持って感じたりするうちに「飛びたい」気持ちは恥ずかしい事ではないと思え「自分の本当にやりたいことは、これだ!」と入部しました。

入部してから大変だったことは、自主性と専門的な知識が求められることです。空ではどの方向に進むのも自分次第で、私はその自由さを恐ろしく感じました。他人に決められた進路を辿ることは簡単ですが、自分で判断し実行することには責任が伴います。私は空に行けば自由な世界が広がっていると思っていましたが、その自由とは沢山の知識や努力の上で成り立つものだと知りました。

私の今の目標は、新入生の「飛びたい!」という気持ちを影で支えることの出来る先輩になることです。私は航空部で、本当は飛びたかったこと、飛ぶのがこんなにも楽しいということを知れまし

た。それは、尊敬する先輩方と個性豊かな同期のおかげです。私もこれから入る後輩が飛ぶことを目いっぱい楽しめるような環境を作れるよう努力したいです。仲間と空への気持ちを大切に四年間を過ごしていけたらと思います。

2年生 森 美聖 (もり みさと)

航空部を知ったきっかけは、同志社大学の課外活動が紹介されているウェブサイトを見たことです。球技系、武道系などの括りに沢山の部活が紹介されている中、スカイスポーツ系に唯一属している団体として、航空部が特別に見えました。そこから航空部、グライダーについて調べ始め、面白い世界に心惹かれました。

入部の決め手となったのは、やはり体験搭乗です。ウインチ曳航の迫力、広い空を滑空する爽快感、上空での美しい景色に感動しました。フライト中は操縦桿に触れる事なく、ずっと縛帯を握りしめていましたが、搭乗後、今すぐ自分で操縦したい!と強く思いました。

フライトだけでなく、R/Wでの先輩方の姿が素敵でした。索つけ、索だし、翼出し等のR/Wワークに加え、ピストも学生が行なっていることに当時は驚きました。フライト後には登島先輩がR/Wで作ってくださった焼きそばをいただきました。とても美味しかったです。

体験搭乗の帰り、京田辺の格納庫を見学しました。ASW28-18(JA06DW)が組んであり、洗練された形が美しかったです。Ka-6E(JA2096)はバラして、萩原式H23C(JA2047)と霧ヶ峰式ハトK-14(JA0122)は吊り下げて保管されていま

した。正門に展示されていた ASK23(JA2354)の他に、福井空港で活躍している ASK13(JA2256)も同志社が所有していると聞き、想像以上にある機体の数に驚きました。

沢山の歴史ある機体と、それらを組んだまま保管できる大きな格納庫を所有している大学はとても珍しいということは、入部後しばらくしてから知りました。とても誇りに思い、モチベーションにもなりました。

この1年で得たものは、大学生活での目標です。この1年間、学科や係養成で沢山の知識を得ましたが、それをどこに繋げるかという目標が、自分の中で明確になってきました。

まずは、自家用操縦士の資格を取ることです。次に、全国大会に出場し優勝することです。同志社の格好良い機体と共に全国に出ます。

もう一つは、ウインチマンになることです。航空部では、1発飛ばすのにも書類や教官やR/Wワークなど沢山の仕事が必要です。その中でもウインチオペレーターの役割に憧れました。

機体系の養成と並行して、動力系の養成にも入っていきたいです。早く知識と技術を身につけて認定をもらい、立派な養成者になることができるよう努めます。

2年生 篠原 瑛奈 (しのはら えな)

私が航空部に入ったのは、体験搭乗がきっかけでした。入学前に航空部という部活があることを知り新歓に行こうか迷っていましたが、新歓期間に校門近くでグライダーというものを初めて目に

し、体験搭乗できると聞いてすぐに申し込みました。体験搭乗ははじめこそ緊張しましたがとても楽しく、WT 曳航の魅力に惹きつけられました。

想像以上のスピードと角度で空をのぼっていく感覚、空を自由に飛ぶ感覚、空から見渡す景色、全てが自分にとって新しく、一瞬で終わったと感じるほど初フライトを楽しみました。飛行機みたいな感覚なのかな？エンジンがないってどういうことだろう？着陸ってどうするのだろう？飛ぶ前はわからないことだらけで怖い気持ちの方が強かったけれど、乗ってみると飛行機より揺れも少なく静かで、想像を絶する安定感に驚きました。旋回操作の時に一緒に操縦桿を持たせてもらい、いつか自分ひとりで飛べるようになりたいと思い入部を決意しました。

入部して大変だったのは学科で思っていたよりしっかりいろんな知識を学ぶ必要があるということです。操縦法の他にも気象のことやグライダーが飛ぶ原理など学ぶことがたくさんあって驚きました。でも、いろんな知識を得られること、他大学と合宿を通して仲良くなれること、普段できない空を飛ぶという経験ができることなど、航空部には期待以上の魅力がありました。

来年度は2回生になりますが、もっと安定した操縦ができるように頑張りたいです。他大学で既にソロに出ている一回生もいるので、自分も毎回のフライトを大切にしてお実に成長していける1年にしたいと思います。また、1回生に教える立場になるので、学科を含めいろんなことに自信を持って答えられるよう、しっかり今年1年学んできたこと見直していきたいと思います。

BOX 便り

卒業にあたって

谷 壮大

こんにちは、4 回生の谷です。卒業を控えた 2 月下旬にこの文章を書いています。『卒業にあたって』ということでこの場を借りて後輩のために 4 年の活動で感じたことを書いていこうと思います。

第一には上回生になるにつれて部の仕事が多くなっていくにつれて『なんで自分がこんな楽しくもない仕事をしなくちゃいけないのか?』とってしまうことがあります。そんな時こそ自分の航空部を続けていこうと思ったきっかけを思い出してみてもいいでしょうか? 色々な場合がありますが、結局は『飛ぶことが楽しい』と言う人が多いでしょう。辛い時こそ飛ぶことを楽しんでみてください。楽しめばこそその航空部だと思います。

第二には周囲の人への感謝を忘れてはならないということです。航空部入部当初は気づかないかもしれませんがグライダーの発航には多くの人の努力と信頼と支援が必要です。

今はまだ誰かの努力を受け取るだけの立場ですが、上回生になるにつれて誰かの為に努力することが多くなってきます。感謝を忘れずにさらには感謝される人を目指してください。

最後に自分のことを少々... 春から社会人になり、OB の一員になります。航空部に入ってから 4 年間は僕にとってとても早いものでした。そのせいか辛かったことも楽しかったことも昨日のことのように思い出されます。そしてきっとこの思い出は一生消えないものとなると思います。

僕も本当に多くの人に支えられてきました。最後になりましたが感謝を述べたいと思います。こんなに出来の悪い人間を最後まで見捨てずに育てていただき本当にありがとうございました。これからは OB として陰ながら航空部を見守っていきたいと思います。

